

教育における三つの方針

■ 生活科学学科 生活情報デザイン専攻の「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

生活科学学科では、専攻ごとに「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）を定めています。

知識・技能	1. 短期大学における学修に必要な基礎的学力を身につけている。
思考力・判断力・表現力	2. 自分の行動について計画を立てることができる。 3. 自分の考えを自分の言葉で他者へ伝えることができる。
主体性・多様性・協働性	4. 情報技術、マネジメント技法、デザイン表現に関して、主体的に学ぶ意欲がある。 5. 生活や社会における様々な物事に興味・関心がある。 6. 地域活動に関心を持ち、自ら他者と関わる姿勢がある。

幼児教育学科

幼児教育学科（以下、「本学科」という。）は、建学の精神である「仁愛兼済」の理念のもと、幅広い教養を身につけ、子どもの理解及びその指導に関する専門知識と技能の教授研究を通して、心豊かで有能な人材を育成することを目的としています。

本学科の「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）は、以下のとおりです。

■ 幼児教育学科の「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）

本学科では、子どもとともに響き合い、いのちの大切さを自覚するとともに、他者への思いやりと感謝の心を持った学生を育てることをめざしています。本学の課程を修め、教養科目12単位以上、学科専門科目52単位以上、合計64単位以上の修得と必修等の条件を満たしたうえで、本学科で身に付けるべき能力（学修成果）を備えた学生に学位「短期大学士（幼児教育）」を授与します。

● 幼児教育学科の学修成果

本学科で開講する教養科目及び専門科目を修得することにより、下記の能力（学修成果）を身につけます。

知識・技能	1. 保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 2. 子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 3. 保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 4. 保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
思考力・判断力・表現力	5. 保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 6. 保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
主体性・多様性・協働性	7. 子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 8. 他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 9. 自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。

■ 幼児教育学科の「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）

本学科は、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）に掲げる本学科の学修成果（卒業時に備えるべき能力）を学生が身につけ、幼稚園教諭2種免許状、保育士資格の他、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格などの関連資格を取得することができるよう、豊かな人間性と幅広い教養を養う教養科目及び専門的能力を養う専門科目を、講義、演習及び実習を適切に組み合わせて体系的に編成します。教育課程の体系は、カリキュラムマップによって、わかりやすく明示します。

本学科で開講する科目の教育内容、教育方法、学修成果の評価について次頁のように定めます。

教育内容	1. 教養科目 (1) 「建学の精神」に関する科目 講義、仏教行事を含む演習、学外ボランティアなどを通して、保育者としての基本的な姿勢を形成する建学の精神「仁愛兼濟」を学びます。 (2) 「現代の教養」に関する科目 文学や法学などの講義を通して、豊かな人間性と教養を学びます。 (3) 「健康」に関する科目 運動に関する講義や実技などを通して、健康や体力を管理する上で必要な基本的知識や方法について学びます。 (4) 「コミュニケーションスキル」に関する科目 外国語でのコミュニケーション、情報リテラシーを通して、保育現場で活かすことのできるスキルを学びます。 2. 学科専門科目 (1) 保育・教育の本質や目的の理解に関する科目 教育や福祉などに関する講義・演習を通して、保育・教育の意義や目的、保育者の役割や専門性などについて学びます。 (2) 保育の対象となる「子ども」や「家庭」の理解に関する科目 子どもの発達や保健、食などに関する講義や演習を通して、乳幼児期の発達や健康・安全を守る知識や技術、家庭への援助の方法などを学びます。 (3) 保育の内容や方法について学ぶ科目 幼稚園や保育所、認定こども園における保育の内容や方法に関する講義や演習を通して、保育の内容や子どもへの援助の方法などについて学びます。1年次には基本的な保育の内容について、2年次には専門性の高い内容や自身の課題に基づいた内容を一部選択して学びます。 (4) 保育の表現技術について学ぶ科目（「表現力育成プログラム」） 1年次前期に、音楽表現、身体表現、造形表現、言語表現など、保育現場で必要とされる基礎的な表現技術を学びます。2年次には、さらに表現力を育成する内容を選択して学びます。 (5) 保育者の業務を体験する実習科目 1年次前期の学習を基に附属幼稚園教育実習に、1年次の学習を基に保育所（参加・観察）実習に臨みます。2年次には、幼稚園（指導）実習、施設実習、保育所または施設（指導）実習に臨み、保育者の業務を体験的に学習します。 (6) 保育・教育を総合的に学ぶ科目 2年次に、1年次の学習での興味・関心を発展させ、自己の課題について探究的に学習します。また2年次後期においては、2年間の学習及び実習経験を総括し、自己の課題の克服と資質・能力のさらなる向上につなげます。
教育方法	1. 主体的な学びの力やコミュニケーション力を高めるために、アクティブ・ラーニングや課題解決型学習、協働型学習を取り入れた教育を行います。 2. 各授業で学んだ内容を基に実習に取り組み、実習で得られた自己の課題を各授業の中で解決できるように、実習と授業科目の往還（つながり）を重視した教育を行います。また、保育ボランティアを推奨し、現場の保育者の姿に学びながら保育実践力の育成を図ります。 3. 実習に関しては、実習担当教員を中心に学内での実習指導を行い、実習中には全専任教員で学生の实習状況を把握するなど、学科全体で連携して指導に取り組みます。 4. レポート課題を課す時期と課題の整合性・連続性を考慮し、形成的評価のために期間中のフィードバックに努めます。 5. 学習の到達度について、各学期末に学生が「充実した学生生活を送るために」や学修成果確認シート等で自己評価を行い、クラスアドバイザーを中心に、一人ひとりの学生に応じたきめ細やかな学習指導、及び、免許・資格取得のための履修指導を行います。
学修成果の評価	本学科では、幼児教育学科の「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）に掲げる「幼児教育学科の学修成果」（卒業時に備えるべき能力）の修得状況は、以下の方法により把握し、評価します。 1. 各科目の講義概要に示す配点比率に基づく成績評価 2. 各科目の成績評価から得られるGPA 3. 本学科で支援する免許・資格の取得状況 4. 学修成果確認シート 5. 学修行動に関する調査（他機関によるものを含む）の結果 6. 「保育者育成のためのキャリア・ルーブリック」を用いた学修の自己評価 7. 幼児教育学科発表会（「保育総合ゼミナール」等の成果発表）

■ 幼児教育学科の「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）

本学科は、各種選抜試験を通して、下記的能力を備えた人物を入学者として求めています。

知識・技能	1. 短期大学における学修に必要な基礎的学力を身につけている。
思考力・判断力・表現力	2. 他者の話や意見を聴くことができる。 3. 自分の考えを自分の言葉や文章で他者に伝えることができる。
主体性・多様性・協働性	4. 子どもに関心を持ち、その成長を支援したいという意欲を持っている。 5. 将来、教育や福祉分野に関連したことで、社会に貢献したいという目的意識を持っている。